

対象年度		令和 5年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート																		
事務事業名		高齢者移動支援事業						予算事業名		高齢者移動支援事業費												
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分														
				03	01	04	2805	経常経費	根拠法令													
総合計画体系									事業の区分	主要事業(6次総非掲載)												
																担当課係等	介護福祉課 長寿支援係					
事業期間		継続 (令和 4年度～ 年度)																				
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】														
バス停までの移動が困難な高齢者等を対象とした新たな交通手段の構築を図る。								市内巡回バスは、ほぼ市内全域をカバーしているが、バス停までの移動が困難な市民がいる。また、高齢化と単身世帯化の進行で、交通弱者は今後更に増加すると見込まれるため、巡回バスを補完する新たな公共交通システムの構築が必要である。														
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】														
タクシーの稼働率が低い時間帯(9:00～15:00)において、市とタクシー事業者が通常一括定額運賃の半額で運送契約を締結し、市の貸し切りとしたタクシーにより、利用者は片道1,000円で市内を移動することができる。								結城市民(65歳以上の高齢者)														
								【事業をとりまく環境の変化】														
								水戸市では、1,000円タクシーの実証実験が行われ、令和3年4月には本格運行が開始されている。本事業は、今ある交通資源を有効活用したデマンド交通に代わる新たな手法であり、過度な財政負担もないことから、財政面からも持続可能な移動手段として期待できる。														
【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】														
高齢者タクシー実証実験				高齢者タクシー本格運行				高齢者タクシー本格運行														
■事業費																						
				R03年度		R04年度																
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0															
	県		支	出	金	0	0															
	地		方		債	0	0															
	そ		の		他	0	720															
	一		般	財	源	0	3,786															
歳入計(千円)				0		4,506																
歳 出 内 訳	節(番号+名称)			金額(千円)			金額(千円)															
	10 需用費			0			40															
	13 使用料及び賃借料			0			4,466															
歳出計(千円)(A)				0		4,506																
伸び率(%)						皆増																
備 考	総合計画 ページ 予算書 ページ																					

令和 3年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R03年度	R04年度	R05年度
活動 指標	高齢者タクシー運行回数	回	目標	0.00	1,464.00	2,880.00
	年間の高齢者タクシー運行回数		実績	0.00	0.00	0.00
	高齢者タクシー運行時間	時間	目標	0.00	1,464.00	2,880.00
	年間の高齢者タクシー運行時間		実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	高齢者タクシー利用者数	人	目標	0.00	1,464.00	2,880.00
	年間の高齢者タクシー利用者数		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	免許返納等により、自動車の運転ができなくなった高齢者への移動支援は必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	利益が見込めないため民間の参入が困難であることから、市が実施せざるを得ない。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	タクシーは活用できる唯一の公共交通であるが、借上げるタクシーの台数、利用者の負担額、稼働時間帯等については、実証実験により判断することとなる。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	既存のタクシー事業者からタクシーを借上げることでイニシャルコストを抑えることができるが、ランニングコストを抑えるために、執行額の3割を利用者負担分で充当することを目標とするため、効率よく稼働することを検証していく必要がある。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	65歳以上の市民であれば誰でも利用できるため、公平性は高い。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	実証実験により内容を精査していく。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	事業者は関東運輸局の認可が必要なため、9月からの稼働に向けた認可申請は提出済みで、市と事業者との契約も締結済みだが、関東運輸局からの認可に関する情報がない状態である。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
高齢者単身世帯・高齢者のみ世帯が増加するなか、移動に関する支援は重要な課題である。また、民間で運営する唯一の公共交通であるタクシーを活用することで、タクシー事業の営業継続に寄与する。よって、事業を成立させるため、市民の利用に合致した条件を整えることが必要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
事業開始後3か月間の実績を分析し、タクシー事業に損失を与えないことが認可継続の条件となるため、課題等は事業履行中に検証することとなる。また稼働率が悪い場合には、利用者の条件等を変更していくことも検討する。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 高齢化等により交通弱者が増加する中、巡回バスの運行のみでは利用者のニーズに応えきれなくなっている。実証実験を通して、課題の整理と検証を行い、住民利便性の向上のため、安定的・継続的にける仕組みを構築する必要がある。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	